

事 務 連 絡
平成 28 年 7 月 28 日

盛岡市医師会長 様

盛岡市保健所長 高 橋 清 実

デング熱等の蚊媒介感染症に関する注意喚起について

感染症予防対策の推進につきましては、日頃より御協力を賜り感謝申し上げます。

この度、国内で探知されたデング出血熱による死亡例の発生を踏まえ、厚生労働省健康局結核感染症課より、別添のとおり事務連絡がありました。

つきましては、貴会員等に周知のうえ、疑われる患者等が受診した際に、留意くださいますようお願いいたします。

また、平成 28 年 7 月 14 日付で改定されました「蚊媒介感染症の診療ガイドライン（第 3 版）」を添付しますので、診療の際、併せて、御活用くださるようお願いいたします。

記

<蚊媒介感染症の検査等に関する問い合わせ先>

盛岡市保健所 保健予防課 感染症対策担当 電話：019-603-8308

※ 夜間・休日等：盛岡市役所代表 電話：019-651-4111（担当が折り返します）

担当

盛岡市保健所 保健予防課 感染症対策担当 小野寺
電話：019-603-8308 FAX：019-654-5665

平成 28 年 7 月 22 日

【照会先】

厚生労働省健康局結核感染症課
課長補佐 野田 博之(内線 2373)
課長補佐 大塚 和子(内線 2376)
(代表番号) 03(5253)1111

報道関係者 各位

デング出血熱患者（輸入症例）死亡例の発生について

日本国内で、フィリピンへの滞在歴がある女性 1 名が発疹等の症状を示し、7 月 16 日に医療機関を受診し、19 日にデング出血熱と確認されました。20 日に医療機関から自治体に届け出があり、新潟県内の地方衛生研究所における検査の結果、デングウイルス 3 型の陽性が確定しました。また、患者の容体は重篤で、21 日にお亡くなりになりました。

直近のデング熱症例の死亡例は 2005 年に 1 例確認されています。

この患者に関する情報は、以下のとおりです。

- 1 年代：30 歳代
- 2 性別：女性
- 3 滞在国：フィリピン
- 4 症状：発疹、腹痛、嘔吐、下痢、下血
- 5 現地での蚊の刺咬歴しこうれき：不明
- 6 居住都道府県：新潟県

(参考) 新潟県プレスリリース

国民の皆様へのメッセージ

デング熱は、蚊に刺されることによって感染する疾患です。

デング熱は急激な発熱で発症し、発疹、頭痛、骨関節痛、嘔気・嘔吐などの症状が見られます。通常、発症後 2～7 日で解熱し、発疹は解熱時期に出現します。デング熱患者の一部は重症化してデング出血熱やデングショック症候群を発症することがあり、早期に適切な治療が行われないと死に至ることがあります。重症化のリスク因子として、妊婦、乳幼児、高齢者、糖尿病、腎不全などが指摘されています。

デング熱の発生地域へ渡航する場合は、長袖・長ズボンを着用したり、蚊の忌避剤きひざい（虫よけスプレー等）を使用したりして、蚊に刺されないように注意してください。

また、海外からの帰国者は、体調に異常がある場合は、到着した空港等の検疫ブースで検疫官に申し出てください。帰国後に症状が認められた場合は、医療機関を受診し、海外への渡航歴を教えてください。

(参考) デング熱の発生状況

	2013 年	2014 年	2015 年	2016 年 7 月 10 日現在
輸入症例	249	179	292	173
国内感染例	0	162	0	0

(死亡例 0)

デング出血熱患者（輸入症例）死亡例の発生について

昨日（7月21日）、県内で、デング出血熱を発症した患者さんがお亡くなりになりました。ご冥福を心よりお祈りいたします。

今回の発表は、お亡くなりになられた方のプライバシーに配慮し、最小限の事実のみの発表とさせていただきます。ご遺族並びに医療機関への取材はお控えくださるようお願いいたします。

なお、この患者さんは、日本に帰国してから、すぐに医療機関を受診したこと、保健所の調査の結果、国内で蚊に刺されていないことから、感染拡大の可能性は低いと考えます。

1 患者の状況

- 県内在住の 30 歳代女性
- 6 月 29 日～7 月 15 日までフィリピンに滞在
- 滞在中に頭痛、発熱があり、帰国後 7 月 16 日に新潟市内の医療機関を受診し、発疹、出血、ショック状態で入院。
- 検査の結果、7 月 19 日にデング出血熱と診断、新潟市保健所に届出。
- 7 月 21 日に死亡（死因：デング出血熱）
- 帰国後、蚊には刺されていない。
- 同行者はいない。

2 県民の皆様へ

デング熱は、蚊に刺されることによって感染する疾患です。

デング熱は急激な発熱で発症し、発熱、発疹、頭痛、骨関節痛、嘔気・嘔吐など見られます。通常、発症後 2～7 日で解熱し、発疹は解熱時期に出現します。デング熱患者の一部は重症化してデング出血熱やデングショック症候群を発症することがあり、早期に適切な治療が行われないと死に至ることがあります。重症化のリスク因子として、妊婦、乳幼児、高齢者、糖尿病、腎不全などが指摘されています。

デング熱の発生地域へ渡航する場合は、長袖・長ズボンを着用したり、蚊の忌避剤（虫よけスプレー等）を使用したりして、蚊に刺されないように注意してください。

また、海外からの帰国者は、体調に異常がある場合は、到着した空港等の検疫ブースで検疫官に申し出てください。帰国後に症状が認められた場合は、速やかに医療機関を受診し、海外への渡航歴を教えてください。

（参考）デング熱の発生状況

	2013 年	2014 年	2015 年	2016 年
新潟県	0 (0)	3 (3)	2 (0)	3 (0)
全国	249 (0)	341 (162)	292 (0)	173 (0)

※（ ）内は国内感染例を再掲

※ 2016 年の値：新潟県は 7 月 22 日現在、全国は 7 月 10 日現在

本件についてのお問い合わせ
福祉保健部健康対策課長 堀井
(直通) 025-280-5785